

# こころ 県P連だより

発行 徳島市北田宮1丁目8-68  
〒770-0003 ☎088-633-1105  
徳島県PTA連合会  
編集 総務広報委員会

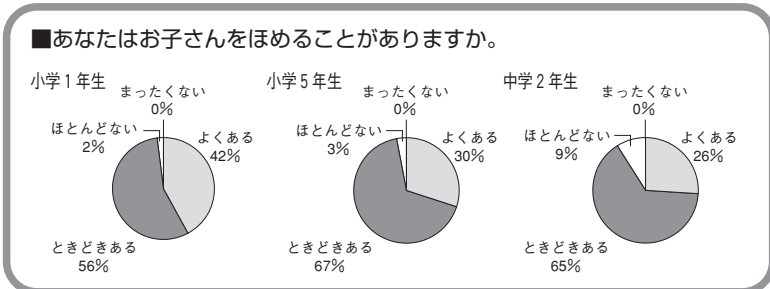
## たっぷり愛して、

## しっかり任せるコミュニケーション

### 徳島県PTA連合会「家庭教育実態調査」より

徳島県PTA連合会では、子どもの生活習慣、家庭における親の子どもへの関わり方と意識等について県下の小・中学生の保護者にアンケートを実施しました。今回「こころ」では、子どもとのコミュニケーションと携帯やゲームのルールについて取り上げました。

「対話」は人とのコミュニケーションにおいてとても大切な要因の一つです。今回のアンケートで「あなたはお子さんをほめることが



ありますか。」との回答で、

「よくある」と答えた方が、小学1年生の保護者では42%、小学5年生では30%、中学2年生では26%と学年が大きくなるにつれ少なくなってきました。わかっていても、「できないこと」のほ

うが目につきがちです。では、無理にはめることを意識せず、お子さんがあなたを喜ばせてくれたとき、その喜びや感謝を、そのまま言葉にして伝えてみてはい

かがでしょうか。「手伝って

くれて、助かった」「○○してくれて、ありがとう」といった言葉を聞くと、子どもはほめられるよりもほかに心地よく感じるのではないのでしょうか。

この「対話」について、県内の学校でスクールカウンセラーをしている、発達支援センターとくしまの上岡義典先生にお話をうかがいました。

### その子らしさを育てる会話って？

#### ○× ちょっと考えてみませんか

- あんたのことわかってうけんな…
- あんたはできる子なんよ…
- × テストどこまちごうたん？しょうもないまちがいで…
- × やったらできるのに、なんで今までせんかったん？
- × 今忙しいけん、あとでな
- × またこんなことして！！この前も○○だったでえ～
- 何回言うたらわかるん？  
(注意することはひとつだけ、長々ならない)
- × 90点でえ。よく頑張ったな。次は100点取りよ！  
(次は100点取りよ！はいらないかも)
- × なーんや、ビリか…
- 最後まで頑張ってよう走ったなあ  
(あきらめない気持ちを教えたい)
- × よその家がしとうけん、まあしゃあないか…
- 我が家は我が家のルールを決めよう
- × 宿題せんかったら、ゲーム取り上げるよ！
- 宿題できたら、ゲームしていいよ  
(同じ意味でも、受け取り方が全然違います)

## 対話の原点

発達支援センターとくしま  
臨床心理士 上岡義典

「もっと、子どもと関わりをもちましよう」「子どもと会話する時間を作りましよう」といった言葉を、よく耳にすると思います。でも、毎日の慌ただしい生活の中で、心掛けてはいらなく「なかなか上手くいかなくて…」という方が大半なのではないでしょうか。

初めてわが子と対面した時の頃を、ちょっと思い出してみて下さい。暇があれば、子どもに話しかけたら、語りかけたりしていませんか？

子どもたちが小学生や中学生になった今、「何を話したらよいのか？」と考え込んでしまうこともあるでしょう。そんな時は、自分の好きなこと、興味をもっていることなどについて話してみませんか？ 時には、子どもたちの「そんな面白くないよ」「いい歳して、そんなことで喜んでいいの」といった冷ややかな声が返ってくるかも知れませんが、それでもOK！何かのきっかけにはなると思います。何しろ「自分が楽しいことは、楽に続けられる」のですから……。

に困ってしまいますよね。まるで、新たな課題が与えられたかのようです。

子どもが小さい頃、一緒に遊んだり、よくできたことを褒めたりする時は、きっと大人も一緒に楽しみを味わっていたのだと思います。親としても、楽しい或いは面白いと感じることだから、身構えることなく自然な形で子どもと接することができたのだと思うのです。

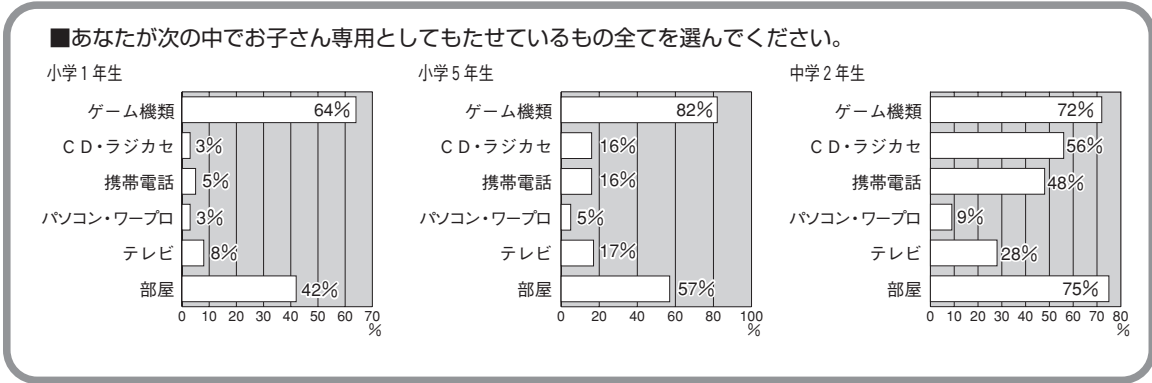
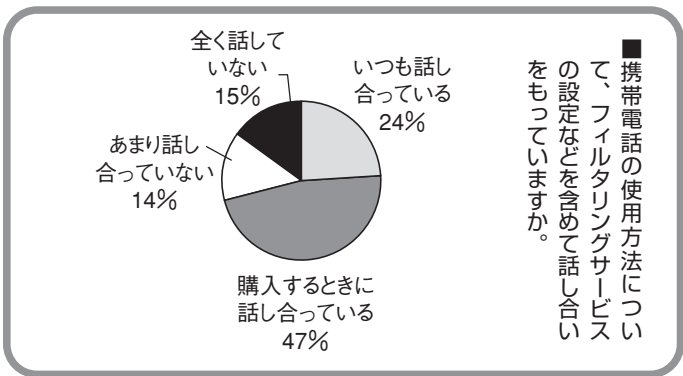
子どもたちが小学生や中学生になった今、「何を話したらよいのか？」と考え込んでしまうこともあるでしょう。そんな時は、自分の好きなこと、興味をもっていることなどについて話してみませんか？ 時には、子どもたちの「そんな面白くないよ」「いい歳して、そんなことで喜んでいいの」といった冷ややかな声が返ってくるかも知れませんが、それでもOK！何かのきっかけにはなると思います。何しろ「自分が楽しいことは、楽に続けられる」のですから……。

# 親子でルールを 決めましょう

## ー 携帯電話・パソコン・ゲーム ー

アンケートの結果では、小学1年生で92%、小学5年生で85%、中学2年生で77%の家庭が、何らかのルールを決めているようです。命令口調で一方向的に押し付けるのではなく、親も携帯やインターネット、ゲームのことを理解し、子どもと話し合っただけのいくルールを決めたいですね。そこで、携帯・パソコン・ゲーム機を使う上での注意点を考えてみたいと思います。

- ◆アンケート実施 平成19年10月・11月
- ◆対象地域 徳島県下
- ◆対象 徳島県下の小学1年生、5年生と中学2年生の児童・生徒の保護者のうちの約1割
- ◆実施人数 全総数2,459名
- ◆回収数 2,174
- ◆回収率 88.4%



小5の8割がゲーム機を所有  
中2の5割が携帯電話を所有  
恵まれた子どもたち？

■あなたはお子さんのテレビ・ゲームの内容や時間、パソコンの使用方法や時間についてルールを決めていますか。

|             | 小学1年生 | 小学5年生 | 中学2年生 |
|-------------|-------|-------|-------|
| 1 ルールを決めている | 32%   | 21%   | 12%   |
| 2 だいたい決めている | 43%   | 41%   | 37%   |
| 3 少し決めている   | 17%   | 23%   | 28%   |
| 4 全く決めていない  | 8%    | 15%   | 23%   |



### [携帯・パソコン編]

- ① 何のために携帯やパソコンを使うのか目的を明確に！ Web サイトの閲覧やゲームは、いつも時間とお金が引き換えになることを、子どもに理解させる。
- ② 個人情報の大切さを家庭で話し合う。個人情報の安易な入力が、迷惑メールや架空請求の被害、犯罪などに結びつく可能性があります。「知らない人からのメールは無視！」
- ③ 人や物を撮影する場合や、サイトに写真を掲載する場合は、必ず相手や持ち主に了解を。著作権や肖像権を侵害する恐れも…。
- ④ 伝えたい気持ちはこもっている？メールを送る前、書き込みをする前に、相手の立場にたって読み返す習慣をつけたいもの。

### [ゲーム機・低学年編]

- ① 対象年齢に合ったゲームを選ぶ。
- ② 自分の部屋にゲームを持ち込ませない。

低学年の場合は、親の目の届く範囲でゲーム機を使わせるようにすることが大切。同じ部屋にいれば、時間も親が把握できるし、コミュニケーションもとれます。

# 「輝く未来を子どもたちとともに」 第36回四国ブロックPTA研究大会 徳島大会

[大会テーマ]

## 児童・生徒の安全を守り、命の大切さを育むPTA活動の推進

2007年11月20日、第36回四国ブロックPTA研究大会徳島大会が、徳島市のアスティとくしまで開催されました。四国の各県から約1,400人の参加者が集まり、記念講演や分科会において新しい情報を得、また相互の交流を図りました。

[趣旨] 子どもたちの幸せを願い、日頃から実践活動を行っている四国4県のPTA会員が一堂に集い、「輝く未来を子どもたちとともに」のスローガンのもと、当面している共通の課題について研究協議するとともに、相互の交流と理解を深め、新しい時代の要請にこたえる望ましいPTA活動を積極的に推進することを目的とする。

### ● ネット社会の7つの常識 ●

- ① 自己責任  
知らない人からのメールは、開かない。  
ネットショッピングは親の管理のもとで。
- ② 思いやりと謙虚さ  
言葉は表情が見えない。細心の注意を。  
言葉による人権侵害は、立派な犯罪。
- ③ 個人情報大切に  
総合セキュリティソフトを使って情報流出をブロック。
- ④ ストップ! 危険なサイト  
パソコンは居間に置く。  
携帯電話は、寝床に持っていかない。  
履歴は消さない。
- ⑤ 著作権・肖像権侵害  
人を不快にさせない。  
許可があれば大丈夫。
- ⑥ コンピューターウィルス対策
- ⑦ IDパスワードの管理

記念講演は、e-ネットキャラバン事務局の山田能弘氏を講師にお招きして、「親としてできること・子どもをインターネットのトラブルから守るために」と題して行われました。インターネットで自分の世界が広がる一方、危険と

世界が隣り合わせであることも。その危険から子どもを守るために、ネット社会の7つの常識を子どもに教えることが、親として大切なことだ。子どもは親がいない中で、どうやって子どもを守れるのかという具体的な方法を教えていただき、大変勉強になりました。

講師 e-ネットキャラバン事務局

「親としてできること・子どもをインターネットのトラブルから守るために」

山田能弘氏



e-ネットキャラバンでは、インターネットのトラブルから子どもたちを守ることを目的に、全国で保護者・教職員などを対象にガイダンスを実施しています。

### 第一分科会 (健康安全)

- ① みんなでやるぞ「早ね 早おき 朝ごはん」運動
- ② 子どもたちが健康な体で生き生きと学校生活を送るために

### 第二分科会 (学校支援)

- ① 学校教育への協力
- ② 親子読書活動をとおして

### 第三分科会 (地域連携)

- ① オリーブ栽培と地区別PTA活動を通して
- ② 家庭・学校・地域が連携し、ともに活動する開かれたPTA活動

### 第四分科会 (危機管理)

- ① お大師の町の地域一丸パトロール
- ② 地域ぐるみで子どもたちの安全を守るためのPTA活動

第56回日本PTA全国研究大会 かがわ讃岐路大会 日程：2008.8.23(土)・24(日)

来年の全国研究大会は香川県でおこなわれます。四国は一つという気持ちで徳島からは開催のお手伝いと多くの参加を予定しています。「来年はかがわ讃岐路大会で会いましょう！」

第1分科会「健康安全」

健全な生活習慣

「早ね 早おき 朝ごはん」

最近よく耳にする言葉です。平成18年度に文部科学省の委託事業「子どもの生活リズム向上全国フォーラム」に取り組みことになった高知県小中学校PTA連合会の母親委員会では基本的な生活リズムの確立は家庭の問題ととらえ、子どもたちの朝食欠食をなくすことを目的に、誰でも簡単に作ることができる「超！簡単 朝ごはんレシピ」の作成に取り組みました。予算的なこと、そして県民運動へと広げる意味もあり、企業等にも協賛を求め、お父さんたちと母親委員一丸と



第1分科会

なりレシピを制作しました。県内の子どもに配布することができたそうです。

また、愛媛県越智郡上島町立岩城小学校PTAでは朝食の内容について調べ、その結果「ご飯だけ」「おかずだけ」といった簡単な朝食で登校している児童が22パーセントもいることをふまえて、食生活改善を目指す、食育への取り組みを行うことにしました。親子給食会と懇談会、そして親子料理教室、参観日に食に関する指導の公開などをおこないました。

食は生活の基本となる大事なことです。しかし今、食も含めた様々なリズムが崩れかけています。まずは個々の家庭へ生活リズムの見直しを伝えていかなければいけないと、改めて感じました。

第2分科会「学校支援」

豊かな心と生きる力

大豊中学は学校行事への事業協力や集団合宿、親子研修等各種事業により、学校と保護者の信頼関係が築かれ、全員参加により会員相互の協調性の向上が図られている。また地域住民の



第2分科会

参加を促すことで地域、学校、家庭の交流が深まりを見せている。但し会員数の減少や住民の高齢化により活動の縮小を余儀なくされており、予算面でも課題が生じている。高原小学校では保護者が主体となった親子読書の活動が昭和40年から続いており、読書習慣の確立、読書力の向上、豊かな心の育成に役立っている。このような真に子供にとって良い活動は形骸化することなく継承されているとの事例紹介があった。

助言者からは教育委員会や地域との連携を図ることの必要性や、予算面では国の各種事業を活用するといった工夫の必要性、課題を抱えた際にはピンチはマインナスではなく、新しいものを創り出すチャンスと捉えるべき。また豊かな心を育てるためには貧しい心を

乗り越えてきた過程をしっかりと伝えていくことが必要といったアドバイスがなされた。

第3分科会「地域連携」

家庭・学校・地域と連携

第3分科会では、家庭、学校、地域と連携を深めるPTA活動をテーマに話し

合いました。提案1では小豆島町立内海中学PTAが地域の方々に協力を求め、町内全ての小中高でオリープの栽培に取り組んだ活動が発表された。活動により①マンネリ化していたPTA活動に新たな風が吹いた。②郷土の良さを知り、生徒とともに郷土を愛することを学んだ。③地域おこしにつながった。④大勢の協力が必要となり、家庭、学校、地域との連携が深まった。などの報告があり



第3分科会

ました。

提案2では小松島市立芝田小学校PTAが廃品回収や全町運動会、地域安全パトロールの活動を発表しました。廃品回収や全町運動会では小規模の小学校だからできる地域との関わりを大切に、「父親クラブ」やPTA本部役員のお父さんたちが頑張っている様子が伝えられました。

私たち一人一人が地域の一員であること、それぞれの立場から子どもたちや地域の中で何ができるのかを考え、その姿をいかに子どもたちに見せて子どもたち自身が学んでいくかということを感じました。

第4分科会「危機管理」

安心できる子どもたちの環境

地域ぐるみで子どもたちの安全を守るというテーマで善通寺市吉原小学校と大洲市喜多小学校から提案がありました。人通り、人目のない地域に人の目を増やせという事で地元の老人会や大学生のボランティアの人達が下校時間に見回りをして子どもといっしょに帰宅する活動がすすめられました。その他にも「不審



第4分科会

者等情報メールの配信システムの導入」「市民バスの運行」等が行われています。また村役場から下校時間になると「手のあいてる人は外へ出て子どもたちを見守って下さい」等の放送をして地域に呼びかけている例もありました。地域によって活動は様々ですが子供の安全を守りたいという思いは伝わってきました。その後の質問の際には「ボランティアが不審者に出くわしたらどう対処しているのですか」という真実味のある意見も出ましたが、実例がないためはつきりした回答はありませんでした。もし不審者を見付けたらあなたならどうしますか？これは事件を未然に防ぐためにPTAが地域といっしょに考えておかなければならない課題だと思えます。

# 子どもたちに 夢を語る

子どもたちには夢や目標をもって欲しいと誰もが願います。そのためには、まず私たち大人が夢(目標)をもち、輝くことが大切です。そして子どもたちに夢を語りましょう。



中央の球体は現在の夢を表しています。下に落ちた円はかなえられなかった夢です。そして左奥に輝く小さな球体は未来の夢を表しています。

球体の表面を覆う小さな球は徳島市・名東郡の中学校PTA18校の文化部が中心となり全て手作りしました。小さな球全てに、子どもたちへの温かな想いが込められています。

私たちの夢は、世界中の全ての子どもたちが笑顔で輝くことです。私たちのこの想いが子どもたちに、そしてあなたに届くことを願っています。

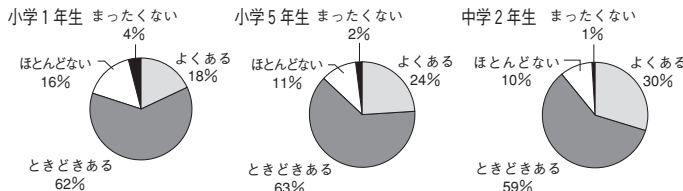
徳島市・名東郡中学校PTA連合会・文化広報部では今年「夢を持つ・大人が輝く」と言うテーマで文化展と広報誌を作成しPTA会員に様々な提案をしています。それを少し紹介します。

親から子どもに贈ることのできる最高のメッセージは、私たち親自身が、夢(目標)をもって生き生きと自分らしく幸せに輝く、それだけで充分ではないでしょうか。子どもはその姿から「人生は楽しいものなんだ」と気づくでしょう。あとは、子どもの人生は子どもに任せて見守ってあげましょう。そして、子どもが夢を見つけたら応援してあげましょう。

ただ、「今さらどうやって夢(目標)を見つけたらいいんだろ?」「家族で夢(目標)を持つためにはどうしたらいいんだろ?」という声もあります。具体的に家族で気軽に話し合っ表に書いてみませんか?書いてみるだけで自分たちがやりたいことが見えてくるときもあります。まずは家族で「我が家の15年計画表」をつくりましょう。そして、家族が集まる場所に貼ってください。この表ができたら、次はその夢(目標)を実現させるためには何をいつ始めればいいのか、何をすればいいのかを逆算で考えてください。そうすると今しなければいけないことが、見えてくるはずです。

大きな夢でも、ほんの小さな夢でも構いません。家族で話し合うことが大切なのです。そして私たち親自身が夢を語り輝くことが大切だと思います。

## ■あなたはお子さんとお子さんの将来や人生のことで話すことがありますか。



## 「夢に向かって」



会長 祖上俊郎

私は今五十才を過ぎたところですが、今なお夢を持っています。それは、私が成人になって始めた剣道の五段審査に合格することです。剣道の昇段審査は厳しく、段が上がるほど合格率は低くなっています。しかも、五段は県連盟の審査で認定される最高位で、六段からは日本連盟の審査となります。今四段をとっているのですが、あと少しで夢が手の届くところまで近づいてきたように思います。

週二日少年剣道の指導をしながら、自らの練習にも汗を流し夢を追い続けています。この剣道教室の子どもの中に、全日本剣道選手権(各県代表一名)に出場することが夢という子がいました。彼は、社会人となりました。彼は、社会人となりました。平成十八年全日本剣道選手権に出場することとなりました。惜しくも上位進出を逃したものの、見事夢をつかみました。次は、さらなる練習を重ね、きつと持ったであろう次の夢を追いかけて欲しいと願っています。

また、米大リーグで活躍中のイチロー選手は、幼い頃よりプロ野球選手という夢に向かって、人一倍の努力をしてくれました。練習に次ぐ練習、その努力が実を結び、大リーグでも新記録を打ち立て、大活躍をする選手となったのです。

「夢をつかむというのは、いきにはできません。小さな事を積み重ねること、いつの日か信じられないような力を出せるようになっていきます。」とイチローもその著書の中で述べています。夢を持つということはその夢に向かって何をどのようにすべきかというのをしっかりと見、日々それにとり組み努力をすることに他ならないと思います。

つい先日、学習指導要領が示されました。中教審答申に基づき、これまでのゆとり教育から大きく舵を取り、伝統文化の継承や国を大切にする教育、学力を高めるといった事が、より具体化されてきました。教育内容が高度になったり、授業時数が増えたり、英語教育が小学校で取り入れられたり、……。子どもたちをとりまく環境は層層厳しさを増し、益々多忙になってくるように思われます。

こうした中にあっても、夢を持ち、夢に向かって真剣に取り組むその足固めを、地ならしをすることができるよう応援していただくのが親のつとめではないでしょうか。保護者の皆様も「継続は力なり」を胸に抱き、夢が育っていく子育てができますようがんばって欲しいものです。終わりに当たり、会員の皆様はじめ関係者の方々には、本当にお世話になりました。心より御礼申し上げます。

とくしま家庭教育フォーラム

人権・家庭教育委員会 委員長  
三宅 茂子

子どもの幸せな自立のために 親・大人の役割

一月二十六日、郷土文化会館で家庭教育フォーラムが開催されました。講師には森川先生をお招きしました。隣同士の方とのコミュニケーションを取りながらの講習は大変楽しかったです。又、私は第4分科会の親のための子育てコーチングに出席しました。鈴木安子先生のお話は最

初から最後まで楽しく聞かせていただきました。ヘルプタイプの親が奪うもの、サポートタイプの親が与えるもの。参加者が二人一組でコーチングのテクニックを使いながら親子のコミュニケーションをロールプレイングし、子育てに効果的なコーチングを学ぶことが出来ました。

子育てコーチング

「愛すること」は、親が子どもから引き出せる最初の力です。まだ寝ているだけの赤ちゃんでも、親とのスキンシップや優しい声から親の愛を感じとります。そこからの自分のことを大切に思う気持ちが芽生えて、命の土台を支えます。

次に引き出したい力が、「責任」です。自分のしたいことの当然の結果を体験させること、子どもはより良い結果を得るために知恵を絞るようになります。それは、「できないこと」を乗り越えて前向きに生きる姿勢につながります。

3つめの力は「人の役に立つ喜び」です。自分が誰かのためになれるという自信は、新しい世界に飛び込む勇気となって、子どもの行動範囲を広げます。

この3つの力を豊かに引き出された子どもは、自分を信じて自分で考えながら、しあわせに自立していくことができます。

第55回日本PTA全国研究大会に参加して

国府中学校PTA会長 川原 富子



全国大会にて

さあ、はじめよう！びわくから！見つけよう！命と自然の大切さ…をスローガンに第55回日本PTA全国研究大会が二〇〇七年八月滋賀県大津市で盛大に開催され、全国から数千名の参加者がびわ湖のほとりに集いました。初日、私たちは「環境学習」をテーマとする第7分科会に参加。作家の立松和平氏による南極から見た地球環境について、地球46億年の歴史について、私たち人類のあり方など、独特な口調と節回しの講演を拝聴しました。二日目の全体会では、テレビでお馴染みの音楽家、青島広志氏とご一緒に活動されている音楽家の小野勉氏による音楽との出会いのお話など、まるでコンサートのような楽しく素敵な記念講演でした。この二日間いろんな事を考えさせられ、いつも思うことですが本当に参加してよかったです。

楽しくて悩ましい広報誌づくり

富田小学校PTA会長 内藤 克明

多くのPTAでは、毎年、広報紙を発行していることと思います。富田小学校の場合も年に三回、PTA新聞を発行していますが、この度幸いにも、第29回全国小・中学校PTA広報紙コンクールで教育家庭新聞社社長賞をいただきました。

表彰式は八月二十四日、第55回日本PTA全国研究大会の際に、滋賀県彦根市で行われまして。私の隣には、山口県の中学校の保護者が座られており、始まるまでのしばらくの間、お話をさせていただいたのですが、広報紙作りの苦労話ばかりが出てきて、「そうですよ〜」とたくさん共感するものがありました。そして、全国のPTAの広報担当者が同じようなことで悩み、苦しみながらも広報活動を行い、その結果が、時

と共に楽しかった思い出に変わっていつていることを感じました。そこで、一般の保護者が、普段何気なく見ているであろう広報紙の、作り方の工夫や気をつけていることをご紹介いたします。広報部以外の保護者の方にも、もっと広報紙のことを知っていただき、PTAの広報活動を身近に感じていただきたいと思います。

◇ ◇ ◇  
学校からは、いろいろなお知らせが送られてきます。その中には、子どもたちのようすを伝える学校新聞や学級だよりなどがあります。そんな中、PTAの広報紙は「PTAに必要なことを会員に知らせる」という大きな目的で作られています。これにより、普段PTA活動に参加できない保護者にも、PTAが何を行っているのかを知っていただくと同時に、子どもたちのために保護者には何ができるか、家庭ではどんなことができるかなどを考えていただく機会となることを願っています。そのため常に、「会員の知りたいことは何か」に気を配っています。

◇ ◇ ◇  
記事には、PTAや学校の活動を取材したものが多くありますが、特集を組む場合もあります。できるだけタイムリーなテーマで、アンケートを取ったり、専門家に聞きに行ったり、保護者を集めて座談会を行う場合もあります。アンケートはできるだけ集計がしやすいように、専門家に

◇ ◇ ◇  
ちらの意図を伝えて依頼原稿にならないように、座談会では単なる雑談に終わらないように。あくまで、保護者としての立場からテーマを見て、保護者としての視点、切り口を入れるように心がけています。

◇ ◇ ◇  
できあがった原稿は全員で読み、立場を筆者から読者に切り替えて、校正をしながらよりよい記事に仕上げていきます。

◇ ◇ ◇  
次に、せっかくだが記事ができて、紙面が読みづらかったりしては台無しです。読みやすくするためにレイアウトを考える。

◇ ◇ ◇  
レイアウトは難しいので、初めての人は真似ることから始めます。新聞や雑誌などから気に入ったレイアウトを切り抜き、実際のレイアウト作業のときにこの切り抜きを見ながら真似をしていくうちに、何となくコツがつかめてきます。

◇ ◇ ◇  
また、レイアウトの時までに、掲載する写真も決めておきます。大きく顔が出るときには本人の了解も必要です。

◇ ◇ ◇  
配布されて、子どもが持ち帰った広報紙を見るのは、広報部員はちょっと勇気が必要ですが、誤字脱字はないか、記事の内容に誤りはないかなどが気になります。そして、何より読者の反応はどうか、部員以外の意見をおうかがいするものが、次の広報紙をよりよいものにするための「コツ」だと思っています。